別紙様式２

上越教育大学研究プロジェクト　終了報告書

研究代表者　所属・職名　上越教育大学附属小学校・校長
氏　　名　　清水　雅之
研究期間　令和４年度～令和５年度

研究プロジェクトの名称	「自分をつくり未来を拓く子どもが育つ学校」 「生みだす子どもが育つ学校」
研究プロジェクトの概要	当校は、「子ども理解」の原則や「人間教育」の立場に立った教育課程研究、教育課程開発研究を続け、学校の在り方を提案してきた。 第 11 期教育課程開発研究においては、研究主題「自分をつくり未来を拓く子どもが育つ学校」を掲げ、「創造活動」「実践教科活動」「実践道徳」「集団活動」の４つの教育活動において、研究主題を具現する子どもの姿を追求し、教育課程の開発を行ってきた。その成果をもって、第 11 期教育課程開発研究の研究期を閉じ、令和５年より研究主題「生みだす子どもが育つ学校」を掲げ、第 12 期教育課程開発研究を立ち上げた。
研究成果の概要	2019 年研究から 2022 年研究において、研究主題「自分をつくり未来を拓く子どもが育つ学校」を掲げて研究を推進し、主に５つの成果を上げた。 ①見いだしていることをより確かにしたり、つくり変えたりするときに、活動をつくり変え、対象とのかかわりを質的に変容させる子どもの姿が現れることをとらえたこと ②子どもの対象とのかかわりの時間的、空間的、集団・社会的なひろがりを、発達の差異の特徴に基づいて整理したこと ③主に４つの教育活動で、活動をつくり変え、対象とのかかわりを質的に変容させる子どもの姿が現れる要件をまとめたこと ④活動の中長期的な構想・展開と短期的な構想・展開の往還が大切であり、その拠り所となることを見いだしたこと ⑤主に４つの教育活動の中で、生き生きと活動に取り組み、自分をつくり未来を拓く子どもの姿が具現されたこと 以上の成果から、第 11 期教育課程開発研究の研究期を閉じ、令和５年より研究主題「生みだす子どもが育つ学校」を掲げ、第 12 期教育課程開発研究を立ち上げた。そして、これからの社会を生きる子どもの姿を思い描きながら、当校が追求し続ける「生き生きとした子ども」を具現する教育課程の開発に取り組んだ。 子どもが、活動や生活をつくり変えていく基には、感性と理性が一体的にはたらきながら自身の内に湧き上がることがあることがみえてきた。これを「実感」と呼び、「『人・もの・こと』とかかわり、思いや願いを実現しようとする過程において五感をはたらかせながら身体に起こっていること。また、そのことを時の経過や契機に応じて思い起こしていること」と定義付けした。この「実感」から、当校の教育課程を構成する４つの教育活動、創造活動、実践教科活動、実践道徳、集団活動を問い直し、子どもの姿をもとに実践と理論の往還を図った。
研究成果の発表状況 （※今後の予定も含む。）	2022 年研究会では、これまでの研究成果について研究小冊子にまとめ、対面での活動公開と動画配信を実施した。研究会活動公開は 10 月４日～11 月４日、動画配信は 11 月 12 日～18 日に、オンライン協議会を 11 月 18 日に行った。また、秋の音楽集会動画配信は 11 月 16 日～18 日に実施し

	た。2023 年研究会は 11 月 22 日（水）に対面開催し、約 300 人の参会者を迎えた。これまでの研究成果について研究リーフレットにまとめて示すとともに、研究発表、授業公開、協議会を行った。 　2024 年研究会は、11 月 22 日（金）に予定している。
学校現場や授業への研究成果の還元について	これまで研究小冊子及び機関誌「教育創造」、ホームページにて、当校の教育活動について発信してきた。今後は、Web「教育創造」や活動公開等において、当校の教育課程のよさを広く伝えていく。また、上越教育大学の学部生・院生等に対しての講義にも当校の職員が講師として授業に参画し、生みだす子どもが育つ教育課程の実際を示していく。